

お知らせ

当院看護師2人が新型コロナウイルス感染する事例が発生しました。

体調不良の新卒看護師Aが休職中の6月27日、自宅で友人らと会食し、30日に病棟看護師Bらと相談に来院し約50分後に帰宅した。

同友人が発熱を主訴にPCR検査を受け7月2日に「陽性」と判定された。Aは濃厚接触を理由に検査を受け4日夕方に陽性と判定され、当院に報告。Bは3日に倦怠感出現し4日には38度の発熱を併発していた。当院ICT責任者らがBの自宅に検査に向かい、7月4日夜中に「抗原陽性」と判定された。

7月5日直前に当院上層部に第一報が入ると同時に、未明から当該病棟などの消毒、食器のディスポ化、早朝から病院長らによる入院患者への状況とPCR検体採取への説明と承諾要請などを行った。午後1時までに当該病棟の患者や看護職員、関与した中央診療部職員、診療科医師など総計121件のPCR検体採取を完了した。続いて緊急感染対策委員会を開催し、当該病棟の看護師全員の自宅待機、臨時病棟看護体制の再構築、入退院予定患者への延期説明、面会者中止などの対応策をとった。

7月6日、病院内の全従業者に4月初旬から記録させていた朝夕体温測定、主症状などを含めた「セルフチェックシート」の完全記録を改めて徹底させた。午後3時過ぎ、民間検査センターから「【B】のみ陽性、他は陰性判定」と報告を受けた。同日に職員7人、9日に発熱の当該病棟職員2人にPCR検査を実施したが全て「陰性」判定であった。

以上の臨床経過や検査結果を考慮し、当院は7月9日より通常の診療体制に復帰しています。

一方、AとB両人は特に発症もなく、所轄保健所の指示に従い加療に専念し、7月15日現在、自宅にて就業準備をしています。

皆様には、ご心配・ご迷惑をおかけ致しますが、感染拡大防止に向けて、職員一同が全力で取り組んでおりますので、何卒ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

2020年 7月15日

理事長	坂本	徹
病院長	五関	謹秀
看護部長	板垣	康子
事務長	滝沢	君雄